

NEWS RELEASE

2020年9月11日



**オリジナル動画『あなたにもできる災害医療の基礎』**

～個人・組織の“自助力”向上にむけて～

**9月14日(月)正午から生団連HP他にて一般公開開始**

国民生活産業・消費者団体連合会 通称：生団連(本部:東京都港区、会長:小川 賢太郎)は、2020年9月14日(月)から**オリジナル動画『あなたにもできる災害医療の基礎 ～個人・組織の“自助力”向上にむけて～』**の一般公開を以下URLにて開始いたします。

生団連ホームページ([www.seidanren.jp/index.php/activity/priority\\_issues](http://www.seidanren.jp/index.php/activity/priority_issues))、  
Youtube([youtu.be/GQ7Dbn\\_K0cw](https://youtu.be/GQ7Dbn_K0cw))

国民生活産業・消費者団体連合会は「国民の生活・生命を守る」という使命のもと、500を超える企業、業界団体、消費者団体、NPO等が結束し、日本で初めて設立された「国民団体」です。**国民団体であるわたしたちは生活者視点を大切に**し、「国家財政の見える化」、「生活者としての外国人の受入れ」、「エネルギー・原発問題」、「災害支援スキームの構築」などの国民的課題について、政官への提言や国民的議論の喚起などに取り組んでいます。



重症化した新型コロナウイルス感染症患者の治療には通常の約4倍の医療スタッフが必要



※ 動画に関する内容詳細は、次ページに記載しています。

■ 動画制作のきっかけ

生団連はこれまで「災害支援スキームの構築」を重点課題の1つとして取り組んできました。この度、防災月間である9月に、日ごろからの備えとして災害時に有効な知識を生活者の皆さまにも身につけてほしいとの思いで、生団連会員であり、国内外の災害時に支援を行っている**認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”**と**共同で動画制作**をしました。実際に災害現場で活動している医師が、止血法、心肺蘇生法(胸骨圧迫とAEDの使用法)、トリアージ、手洗いなど、「**災害時に私たちが知っておきたい災害医療の基礎**」を解説しています。

■ 動画のねらい「自助力」をつけるとは

本動画は、巨大地震の発生を想定し、災害発生時の**「自助力」をテーマ**として制作しました。災害が起こり負傷者が出たときに、自分の家族や自身が属する組織・地域社会のために自ら何をすべきかを医療の観点から説明しています。首都圏直下型地震が発生した場合、重症者の大量発生と搬送手段の不足などにより、治療を受けられないまま死亡するリスクが高いと言われています。医療リソースが不足する中一人ひとりが自助力を発揮することで、本当に緊急治療を必要とする人が適切に治療を受けられることを目指します。

本動画は、生団連会員への周知を目的として制作しましたが、ぜひ生活者の皆さまにも広く知っていただきたいの思いから一般公開することにいたしました。ぜひ皆様の自助力向上のためにお役立てください。

※リリースの添付画像をご所望の方は下記のメールアドレスまでご一報お願い致します。他、リリースに関する問い合わせは、

国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) 広報担当 塚原・深田まで

〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル8階

TEL: (03) 6833-0493 / FAX: (03) 6833-0494 E-mail: [jimu@seidanren.jp](mailto:jimu@seidanren.jp)

## ■『あなたにもできる災害医療の基礎』～個人・組織の“自助力”向上にむけて～

「助ける」には公的機関による公助、近所や地域コミュニティで助け合う共助、家族を含め自らの命は自らが守る「自助」の3つがあります。どれも大切な要素ですが、災害発生直後には搬送手段の不足、交通麻痺などにより、外部からの助けを得にくくなります。そうしたときに必要となるのが私たち一人ひとりの「自助力」です。

自助力の例として止血法・心肺蘇生法を紹介しています。空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”稲葉医師によれば大抵の怪我は自分で止血できるといいます。また、病院搬送前に応急処置として心肺蘇生を行うか否かで、傷病者の社会復帰までのスピードを左右するということです。

もう1つ、大切なことが緊急時に傷病者の優先順位付けを行う「トリアージ」。自らの力で立って歩けない重症患者を見つけ出すことが重要です。災害時にはたくさんの負傷者が発生することで、人員・病床・医療機器などの医療リソースが不足します。加えて、重症化した新型コロナウイルス感染症患者の治療には通常の4倍の医療スタッフが必要だといわれており、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の環境下においては、深刻な医療リソース不足が見込まれます。私たちもこのトリアージの考え方を取り入れながら「自助」を行うことで、治療を必要とする人が医療にアクセスでき、命を助けることができるのです。

### 3つの「助ける」



### 私たちができる応急処置：止血法



### 私たちができる応急処置：心肺蘇生法



### 災害時には医療リソースが不足



### 傷病者の優先順位付け「トリアージ」



### 「自助」の力で助かる命を増やす



公開開始日時：2020年9月14日（月）正午

動画時間：41分05秒

動画URL：[生団連ホームページ\(https://www.seidanren.jp/index.php/activity/priority\\_issues\)](https://www.seidanren.jp/index.php/activity/priority_issues)

Youtube([youtu.be/GQ7Dbn\\_K0cw](https://youtu.be/GQ7Dbn_K0cw))

## ■ 動画における講師紹介



稲葉 基高氏 プロフィール

岡山県出身

現：岡山大学医学部 災害医学講座所属

認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン勤務

空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”プロジェクトリーダー

長崎大学医学部卒業後、岡山県で外科や救命救急センターなど救急医療に携わる。

専門分野：緊急診療、緊急外科、災害医療

## ■ 空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”とは

大規模災害の被災地にいち早く駆け付け、救助・救命活動を行うために発足した医療を軸とした災害緊急支援プロジェクト



<ARROWSのチームが持つ機能>

